



第402回 7/5 (火)「やまと国際フレンドクラブ (IFC)」  
会長 長谷部 美由紀さん  
会計監査 船越 英一さん

市民レベルの国際交流、多文化共生を目指して大和市国際化協会のボランティア有志メンバーが2004年に設立、それぞれ多彩なルーツを持つ24名のメンバーで「出来るときに、出来ることを」をモットーにイベントを企画、開催しています。  
活動のやりがいを「参加者の楽しそうな笑顔と準備に携わるメンバー達の努力する姿」と語る長谷部さん「発表の場が少ないと思われる外国籍の子どもたちに場を提供したい」と船越さん。想いを1つにして活動を続けています。9月23、24、25日は第15回やまと国際アートフェスタ開催の予定です。「出来るときに出来ることを」共に活動するメンバーを募集中です。

<http://ifc-yamato.com/index.html>

8月の出演 404回 8/2 (火)「サークルありんこ」・405回 8/16 (火)「やまと国際オペラ協会」・406回 8/30 (火)「血管けあ元氣隊」

FMやまと 77.7MHz 第1.3.5(火) 生放送 9:00 ~ 10:00 同日再放送 15:00 ~ 16:00

第403回 7/19 (火)「日本ケアトランポリン普及協会」  
代表 関 健寿さん  
会員 柏本 郁江さん

高齢者や障害者向けに開発された運動器具ケアトランポリンを主に他の運動器具と組み合わせたサーキット形式の体操教室を開催しています。  
シリウスで開催されている大和市健康都市大学で何度も講師を務めている関さんは「健康が一番大事、健康寿命を延ばす為の体操教室や相談業務に加えて健康体操指導者の育成にも力を入れていきたい。体操教室では万全の感染防止対策を取っているのでは是非一度ケアトランポリンを体験して欲しいです。」と語りました。



問合せ：090-8450-7819 (関さん)

## TSUBASA's トーク 第10回「田舎体験プログラム」

### ①体験プログラムの紹介

岩手県一関市花泉町の「緑のふるさと協力隊」として、今年度から僕は、農業や地域行事の手伝い、広報活動などのボランティアなどに取り組んでいます。

活動も落ち着いてきた6~7月、合間を縫って、「田舎体験プログラム」の企画と準備を進めてきました。「田舎体験プログラム」は田舎暮らしに興味のある人を対象に、花泉町の農業や地域交流を体験してもらう1泊2日のイベントです。

プログラムの目標は、地域の固有性や花泉町のことを学んでもらうことと、夏休みの思い出を作ってもらうことで、日程としては7月中旬~8月末に全4回行うことを計画しました。

### ②体験プログラムの思い出と企画

思い立ったのは、ある朝、花泉町の自宅から見える水田を眺めながらコーヒーを飲んでいた時でした。「今まで自分が出会ってきた人々と再会するきっかけが欲しい」、「地域の暮らしを都市に住む人々とできれば、もっと楽しいのでは」と思い、大学時代の同級生に電話で相談してみました。

「大学生に対して花泉町内での体験プログラムを案内したい」と伝えたところ、同級生も関心を持ってくれたようで、電話の1週間後、東京から花泉町まで来てくれました。僕の活動拠点の1つである一関市役所花泉支所の職員の方々と打ち合わせしてくれたり、心強かったです。こうした出来事があり、プログラムが現実的になってきました。



市役所での打ち合わせ



紹介ポスター

### ③プログラム広報の作戦

プログラム広報の作戦は、紹介ポスターで直感的にプログラムの雰囲気を知ってもらい、ポスター上のQRコードから詳細を紹介するwebサイトに誘導、そのままweb上での申し込みにつなげるという流れです。  
ここまで準備を整えた上で、作成したポスターの写真や紹介ページのリンクをSNSで多くの人たちに届けました。一部の友人や一関市役所の移住などを担当する課には広報依頼もしました。

#### SNS「note」の紹介ページ

「田舎体験プログラム」の紹介  
「地域の農業や暮らしを体験してみたい」「地域の人たちの様々な生き方に触れてみたい」「夏休みの思い出を作りたい」  
こうした思いを本当のことにしちゃいませんか？



### ④広報活動を始めてから

残念ながら、7月中のプログラムは広報が押したことや申し込みがなかったことでキャンセルになりましたが、広報を始めてから様々な変化が起きました。例えば、広報活動の中で、引地台中学校の時の同級生に連絡するきっかけになり、やりとりが再開したり、広報前から「プログラム参加を考えている」と直接連絡が来たりするようになりました。

その後のプログラムの準備や日頃の活動についてInstagramを使って紹介しています。よろしければご覧ください。(サポーター 尾畑 翼)



InstagramのQRコード



体験プログラム紹介ページ

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第181号 発行日：2022年8月10日

大和市民活動センター <開館日 月~土 9:00~18:00>  
<休館日 12月29日~1月3日・毎月第3月曜日>  
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788  
e-mail: yamato@ar.wakwak.com  
<http://www.kyodounokyoten.com/>

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

# あの手 この手

あの手この手のマークの間のSIは solution(解決)のSです。

第181号 2022年8月10日 大和市民活動センター【拠点やまと】発行

8月号  
2022



ペテルギウス玄関  
8月2日の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」主催  
2021「第14回やまと国際アートフェスタ」  
入賞作品を掲載しています。

今回のテーマは ~ 笑顔のために ~

YUMC5 やまと国際賞

入江 真衣 さん

大和市立上和田小学校3年生(当時2年生)

タイトル:「妹とわたし」

メッセージ:「絵の中で妹とわたしが、なかよくわらっているようにしたいと思いながら、かきました」

「やまと国際アートフェスタ」は  
「やまと国際フレンドクラブ(IFC)」\*の主催で毎年催されています。  
\*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら  
「ともにくらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

## 市民活動情報を発信中！

大和市民活動センターでは情報紙「あの手この手」の他にも様々な媒体で情報を発信しています。  
貴団体の情報もお寄せください。  
活動が広がりますよ！

ホームページ →



YouTube チャンネル  
登録団体紹介映像を配信

各団体の動画を見て、うちの団体も動画で紹介したい！  
と思われた方はセンターにご相談ください。

### ニュースレター

毎月25日に配信いたします。配信希望者の方は、  
右QRコードよりご登録ください。  
現在、Vol.209を配信。  
イベント・助成金情報が満載です。



Instagram&Facebook

# 第99回 共育セミナー（開催レポート）

## ウィズコロナ、ポストコロナ時代の社会貢献活動

### その3 福祉施設におけるアート活動の実践と その実践が社会と出会うということ

7月の共育セミナーは、「ポストコロナ時代の社会貢献活動」シリーズの3回目として「福祉施設におけるアート活動の実践とその実践が社会と出会うということ」をテーマに、中津川浩章さん（美術家、障害福祉サービス事業所アール・ド・ヴィーヴルのアートディレクター、フリーのキュレーター）と萩原美由紀さん（認定NPO法人アール・ド・ヴィーヴル理事長、同施設長）をお招きして、トークセッション形式で会場とZOOM参加者23名の参加を得て開催しました。（県外からの多くの参加者に感謝!!）福祉施設でのアート活動といった切り口で、今回のテーマを設定しました。お二人のセッションと、アール・ド・ヴィーヴルをオープンするまでに、数多くあった困難をエネルギーにチャレンジ精神で乗り越え、NPO法人を立ち上げられたことをいきいきと語られ、障がいがある人がアートを仕事として、社会とかかわり、自分らしく生きる姿が映像としてはっきり見えて、楽しかったセミナーでした。

**想いを人に伝えて、具体的な「ロードマップ」を描くと、ものごとは動きはじめ、支援者は自然と現れる。そして、アートはみんなを自由にする**  
写真提供：アール・ド・ヴィーヴル 文責：船越 英一

大和市民活動センターは、市民活動、NPO活動の支援を担っている中間支援組織ですが、支援の現場で関わる団体への福祉的アプローチは得意でないというか、福祉に関して総合的な知識を持ち合わせている専門的なスタッフがいるわけではありません。

そんな中で、「あの手この手」6月、7月号にインタビュー記事を掲載させていただこうと、小田原市のアート活動を「仕事」にされている「アール・ド・ヴィーヴル」（生活介護・就労支援B型）を訪ねました。

そこで、通所されている皆さんが、いきいきとその人オリジナルの表現したいアート活動を、自由にしている姿に出会い、また、カフェでは、オリジナルのオンリーワンのお皿にのったガトーショコラを食べることもできました。（残念ながら、セミナーで萩原さんからお話があった、小田原の無農薬レモンを使ったレモンケーキは品切れでしたが）

今回のセミナーでお話があったように、通常、B型の施設での仕事は内職仕事で、黙々と慣れない手つきで通所される方が行っているイメージですが、「アール・ド・ヴィーヴル」の皆さんのアート活動（仕事）は楽しい活動そのものに感じました。（雰囲気がとても明るかった）

今の「アール・ド・ヴィーヴル」に至るまで、ダウン症の親の会の萩原さんが、他のメンバーとともにアート活動を仕事とする福祉施設を作ろうと明確に目標に掲げ



て、中津川さんを紹介して頂ける方と出会い、中津川さんと喫茶店で会って、想いの丈を中津川さんに素直に伝えられて、まず、ワークショップから始めるといった、地道なロードマップを描かれたことをセミナーでお話されました。構想から約10年の歳月をかけて、萩原さんは小田原市の教育委員を2期8年務められる傍ら、さまざまな支援者に会い、目標を実現させたそうです。ワークショップの開催にあたっては、絵の具で汚すかもしれないし、障がい者ということも承知の上で、場所を貸してくれるオーナーさん（幸運なことにNPOの理事さんだったそうです）との出会いもあったとのこと。ほかにも、大変なご苦労があったに違いないのですが、お二人のお話からはそんなことを全く感じさせないオーラ、エネルギーがありました。

ぼくは、中津川さんと、一般市民向けにさまざまなセミナー（第三世界に足場を置いた社会・経済・政治関連分野がメイン）を開催するNPO法人の「表現することは生きること」というセミナーを受講することで出会ったのですが、ある年、そのセミナーの一コマで、「アーツ千代田3331」という千代田区の中学校を改修してできたアートセンターで、現代アート作品を鑑賞した後、そこで体験したワークショップは衝撃的というか、ぼくにとって、なるほどと思った出会いでした。中津川さんが主宰されている障がいがある人が制作をしている現場で、そのセミナーの受講生として、画用紙に向かったのですが、障がいがある人の表現や色遣いがなんて自由で惹きつけられるんだろう



とただただ感じて、こんなに自由でいいんだと思い、僕自身も他の受講生も気持ちが楽になって描けたことを記憶しています。

共育セミナーでは、川崎埠頭にある株式会社から依頼を受けて、「アール・ド・ヴィーヴル」が壁画（東京湾岸物流センターウオールアート制作プロジェクト）を描いたことを記録したYouTube映像を観ることができました。

この事業は、ある会社がユニバーサルデザインが専門のデザイナーに依頼して企画し、地域の施設の方と一緒に制作したいという意図で実現したものでしたが、自家発電設備の壁画を、クライアント、中津川さん、萩原さん、アール・ド・ヴィーヴルに通う人など、みんなと一緒に、対等に意見を出し合って制作する現場を紹介したドキュメンタリーでした。その結果、計画よりずっとよいものになり、アール・ド・ヴィーヴルに依頼された仕事が、地域の人も楽しめ、依頼した会社の社員にとっても誇れるものになった事例として紹介されていました。中津川さんは、この動画のなかで「日本中の壁という壁にこんな素敵な絵が描かれたらいいな」とコメントされています。

アール・ド・ヴィーヴルのみなさんが制作された作品は、小田原市の企業、銀行、公共施設に置いてもらえたり、2021年9月にオープンした文化施設のホワイエに地元信用金庫の依頼で中津川さんのディレクションのもと、全長6メートルの壁画を完成させたり、この7月には、小田原



2019年、小田原市がラグビーワールドカップに出場する豪州ワラビーズのキャンプ地になったのにちなんで、障がい者も、健常者も、ラグビー好きな高校生もみんなで描いたバックカー。描く場所は、デパートの敷地を借りた。油性ペンを使ったので、中津川さんは養生に大変な神経を使われたとのこと。おかげで、ワラビーズカラーの黄色と黄緑基調の素敵なデザインとなる。このバックカーが、施設の前を走ると、描いたメンバーは今でも歓声をあげるそう。



お二人の背景の写真は、中津川さんがコーディネートされた「表現することは生きること」というタイトルのセミナーで、甲賀市の「やまなみ工房」を訪ねた際、筆者が工房内の活動、作品などを撮影したもの

展覧会を中津川さん、萩原さん、通所者のみなさんのギャラリートーク付きで開催されました。

このように、地域、企業とコラボレーションしたアート活動が、先駆の施設から多くの地域に広がっていくことを希望します。なぜなら、彼らは特別な美術教育を受けた人ではなく、たまたま、その地域に住んでいて、その施設に入所した人なのですから。誰もが持っているアートの力が、多様な人に勇気、自由を提供してくれます。

## 6月の展示コーナー

6/20～30 水彩スケッチ「大和会」

市民交流スペース内の「展示コーナー」では、個人・団体の活動の紹介や作品展を行うことができます。申込み方法については、大和市民活動センターまでお問い合わせください。

共育ボードより



★素晴らしい水彩画ですね。しみりと情景が伝わってきます。  
★この画を見ていたら外に出たくなりました。コロナにまけるな!

8月1日（月）はれ

2022年度センター登録更新、ありがとうございました。

みなさんと一緒に市民活動を盛り上げていきたいと思っています。更新申請書の中にとっても素敵なコメントがありましたので、ご紹介させていただきます。

**よみよみの会** コロナに振り回されたこの1年間ふつふつと感じることはボランティアとは相手があつてこそ…急がず、慌てず、ゆっくりとな～んで悠長な思索は先の見えないシニアには厳しいけれど、それでも足を止めずに進みたい。

毎回のリモートで垣間みせる会員各々の思考の確かさに救われる。何より嬉しい。年齢を重ねても、見えない先は明るい!

「センター」の  
ある日ある時

